

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">松 本 薫 【ライフサイエンス専攻 平成23年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">Taxonomic reinvestigation of marine macroalgal species with special reference to morphologically similar species complexes</p>	<p>海洋に生育する大型光合成生物の海藻類（緑藻類，褐藻類および紅藻類）は，体制が単純で種を認識するための分類形質が少なく，しかもそれらの形質状態は環境変動によって大きく異なることが知られ，種の形態的特徴がいまだ把握できていない種が多く，種多様性の理解が進んでいない。</p> <p>本論文では，海藻類の種多様性を正しく認識することを目指し，形態的に区別できないが分子系統解析によって区別できるDNAクラスター種に注目し，それらの天然藻体と培養藻体を用いた形態比較，生育環境調査およびタイプ標本を含めた分子系統解析をおこなった。</p> <p>第一章では，形態から緑藻アオサ属のボタンアオサと種同定できる藻体には，分子系統的に異なる5種が存在することを明らかにし，それぞれの種を形態的に区別できる分類形質を明らかにした。5種のうち1種は，二次的仮根により葉片同士がつながるというアオサ属では報告のない特徴を保持しており，新種<i>Ulva adhaerens</i>として記載した。また，研究過程で発見した<i>rbcL</i> group II intronの進化的由来について解析した。</p> <p>第二章では，紅藻イボツノマタと呼ばれるものの中に，DNAクラスター2種を発見し，両種が生殖器官の特徴によって区別できることを示した。タイプ標本からのDNA抽出と分子系統解析により，1つをイボツノマタ，もう1つを<i>Chondrus retortus</i>として新種記載した。</p> <p>第三章では，褐藻ハバノリ類でDNAクラスター3種を発見し，それら3種が明瞭な形態的ギャップにより区別することはできないが傾向が異なること，生育時期/場所が若干異なることを示し，そのうちの1つを<i>Petalonia tenuis</i>として新種記載した。</p>
審査委員	<p style="text-align: center;">(主査) 准教授 畠 田 智</p>	
	<p style="text-align: center;">教授 由 良 敬</p>	
	<p style="text-align: center;">教授 作 田 正 明</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 服 田 昌 之</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 近 藤 る み</p>	